

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」総括表 令和4年

法人名	(有)丸心	代表者	河田 多恵子	法人・事業所の特徴	利用者様一人一人の人格を尊重し住み慣れた地域での生活を継続する事が出来る様、地域住民との交流や地域生活への参加を図りつつ利用者様の心身の状況・希望及びその置かれている環境を踏まえ通いサービス、訪問サービス及び宿泊サービスを柔軟に組み合わせることにより地域での暮らしを支援します。
事業所名	小規模多機能型居宅介護 丸心ふわり	管理者	佐々木和子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	人	人	2人	1人	人	9人	人	12人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果 (事業所内の評価)	意見 (外部関係者)	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<p>1.初期支援(はじめのかかわり) 新規利用者様に関する基本情報、連絡ノートや管理日誌等で情報の共有を図り、一日も早く馴染めるように声かけや配慮をする。特に連絡ノートの記入を徹底して今まで以上に活用する必要がある。</p> <p>2.「～したい」の実現 利用者様の「～したい」を介護計画に取り入れて実践し評価する</p> <p>3.日常生活の支援 利用者様の心身の状態や変化について朝のミーティングや会議等で話し合い、情報を共有して適切な生活支援が行える。</p>	<p>1.初期支援(はじめのかかわり) 新規利用者様に関する基本情報、連絡ノートや管理日誌で職員間の情報共有は図れており、声かけや笑顔で対応するなど利用者様が馴染めるように働きかけができています。</p> <p>2.「～したい」の実現 利用者様の「～したい」やご家族の希望を取り入れた介護計画が作成されているが、実際には把握ができていない、実践ができていない、一人ひとりと向き合う時間がないのが現状。</p> <p>3.日常生活の支援 利用者様の心身の状態や変化について、早めに対策を考えてミーティングや連絡ノートを利用して情報を共有して適切な生活支援が行えている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価を拝見し、メンバー全員が真摯に取り組まれているのがうかがえた。 ・コロナ禍であっても実行可能性が高い具体的な計画になっている。 ・全員で、利用者やその家族・地域に少しでも向上しようとする取り組みが確認できました。 ・自己評価をし、改善点があれば見直して改善されていると思います。 ・改善計画の具体的な取り組みがされ、新たな改善計画が作成されている。 ・事業所の質の向上のため日々スタッフ全員とても努力していると思います。 	<p>1.初期支援(はじめのかかわり) 新規利用者様には一日も早く馴染んでいただけるように笑顔で対応し声かけや困りごとの調整を行う。基本情報の確認を行い、違っている点や改善点を見つけてより良い介護が提供できるよう管理日誌や連絡ノートを活用しスタッフ間で共有する。</p> <p>2.「～したい」の実現 一人ひとりの利用者様に寄り添い、「～したい」の気持ちを引き出して介護計画を作成し、目標を目指した日々の関わりができる。利用者様の「～したい」をわかりやすく一覧表にして職員が把握しやすくする。</p> <p>3.日常生活の支援 利用者様の心身の状態や変化の他、ご家族の体調や家庭環境の変化等も把握して早めに対策を考えてミーティングや連絡ノートを利用して情報を共有し、適切な生活支援が継続して行える。</p>

	<p>4.地域での暮らしの支援 コロナ禍であってもご家族と連絡を取り合い、良い関係が継続できるように支援する。</p> <p>5.多機能性ある柔軟な支援 コロナ対策を行いながら利用者様の日常生活に気を配り、地域密着型として柔軟な支援を継続する。「訪問」のニーズがあれば適切に提供する。</p> <p>6.連携・協働 コロナ禍であってもご家族や医療機関などと必要なサービスや交流を検討し実施を継続する</p> <p>7.運営 コロナ禍である為、利用者様の安全を第一に考え、地域との間接的な交流を検討する。</p> <p>8.質を向上させるための取組み コロナ禍のため外部の研修会には参加できなくても月1回の職場内の勉強会を充実させ、リスクマネジメントについても理解を深める。ヒヤリハットや事故の問題点や原因について話し合っ対策をたて、その後しっかり検証する。</p>	<p>4.地域での暮らしの支援 コロナ禍であっても、毎月担当者から手紙で利用者様の状況をお知らせし、サービス担当者会議でご家族の介護に対する意見を聞いている。また体調に変化があれば電話で伝える等、家族と良い関係が継続できた。</p> <p>5.多機能性ある柔軟な支援 コロナ禍であり、地域の資源は使えていないが、早朝の訪問依頼に対応できた。ご家族のニーズに応じて訪問・宿泊など柔軟な支援が行えた。</p> <p>6.連携・協働 コロナ禍であってもご家族やサービス機関との会議は行われた。地域住民との交流は図れなかった。</p> <p>7.運営 コロナ禍であったが、家族会で花壇の花植えが行われ、地域の方に喜んでいただけた。</p> <p>8.質を向上させるための取組み 月1回のユニット会議ではヒヤリハットや事故報告を提出してもらい検証をしているが、再発防止に繋がらないことがあった。同じ報告が続いた。</p>		<p>4.地域での暮らしの支援 コロナ禍であってもご家族と連絡を取り合い、良い関係が継続できるように支援する。必要があれば地域の資源などの活用も検討する。</p> <p>5.多機能性ある柔軟な支援 コロナ対策を行いながら利用者様の日常生活に気を配り、地域密着型として「通い」「訪問」「宿泊」など柔軟な支援を継続する。</p> <p>6.連携・協働 コロナ禍であっても感染対策を徹底しながらご家族や医療機関などと必要なサービスや交流を検討し実施を継続する。</p> <p>7.運営 コロナ禍であっても地域との間接的な交流を検討する。利用者様、ご家族様、介護者から意見や苦情を運営に反映できるように働きかける。</p> <p>8.質を向上させるための取組み 月1回の職場内の会議や勉強会を充実させてリスクマネジメントについての理解を深める。ヒヤリハットや事故報告の検証は責任者を決めてしっかり行い、後日結果を報告する等して再発防止に努める。</p>
--	---	--	--	---

	<p>9.人権・プライバシー 「不適切ケア」「身体拘束」についての勉強会を開催し、また日頃から話し合う場を持ち、より良い介護が実践できるように取り組んでいく。</p>	<p>9.人権・プライバシー 職場内の勉強会を開催して身体拘束や不適切ケアについて学び、利用者様の安全のため必要と思われる最低限の身体拘束を行っている。また職員が身体拘束を解除できるように取り組んでいる。</p>		<p>9.人権・プライバシー 職場内勉強会で身体拘束や不適切ケアについて学習する。利用者様の安全のために必要と思われる必要最低限の身体拘束を行うが、定期的な見直しを継続して行う。</p>
<p>B. 事業所の しつらえ・環境</p>	<p>今後も周囲の感染状況を把握しながら感染対策委員会で現状にあった感染対策を立て実行することで、利用者様が安心して暮らせるように努める。</p>	<p>利用者様や職員の感染予防の為に月1回、感染対策委員会で身近に発生した感染状況を話し合い予防計画を立て実行している。また実際にクラスターが発生した場合を想定して、シミュレーションをして具体的な計画を立て必要な物品を準備している。</p> <p>① 利用者様や職員は毎日検温を行い、不織化マスクを付け、手洗いとアルコール消毒を行い、時間毎の換気を行っている。</p> <p>② 毎日お掃除を行い、アルコール消毒を継続している。</p> <p>③ 通所では三密にならない様に座席を配置して、歌や風船バレーを禁止して利用者様どうしが混み合わない様になっている。</p> <p>④ 利用者様や職員のコロナワクチン接種も継続して実施している。</p> <p>⑤ 職員の感染防止の為に、外出を自主的に制限する等の取り組みを実施した。</p> <p>⑥ 入居様の面会時間は15分として、場所は玄関フロアー、面会人数を制限した。</p>		<p>今後も月1回の感染対策委員会で感染状況を把握し、状況にあった感染対策を継続して、クラスターの発生を防いで行く。</p>

<p>C. 事業所と地域のかかわり</p>	<p>今後も施設が地域に受け入れられ、高齢者の受け皿となれるよう、地域の方々と笑顔で挨拶する取り組みを継続する。</p>	<p>コロナ禍でもあり、積極的に関る事は出来ていないが、利用者様と散歩中に近所の方々に笑顔で挨拶する事は出来ていた。</p>	<p>・コロナ禍で実際に訪問する機会が持てず、わからないことが多く申し訳ありません。</p> <p>事業所は少し離れるとまだ知られていないように思う(若い方が多いせいかもしれません)いつも感じの良い笑顔で挨拶をしてくれます。</p> <p>・コロナ禍のため地域の交流は難しくなっているので一緒に外出等できなくて残念に思います(仕方ないのですが…)</p> <p>・事業所は相談しやすい場所になっています。相談する前にスタッフの方に声をかけていただいたりとても良い環境だと思います。</p>	<p>今後も施設が地域に受け入れ、高齢者の受け皿となれるよう、地域の方々と笑顔で挨拶する取り組みを継続する。</p>
<p>D. 地域に向いて本人の暮らしを支える取り組み</p>	<p>コロナ禍のため今後も地域の人々との交流は難しいことが予測されるが、散歩中に会った地域の方々には笑顔で挨拶することを継続する。</p>	<p>コロナ禍でもあり、積極的に地域に向いて地域の方々と交流を図る事は出来なかったが、散歩中に会った地域の方に笑顔で挨拶をする事はできていた。</p>	<p>・運営推進会議議事録からは、地域との関わりへ前向きなご様子が見えられました。</p> <p>・コロナ禍の影響があり評価が難しいです。</p> <p>・コロナ禍であっても職員の方との散歩や車で桜や紅葉を見に連れて行ってくださり、できることを実施されていると思います。ありがとうございます。</p>	<p>コロナ禍の為、今後も地域の人々との交流は難しい事が予測されるが、散歩中に会った地域の方々と笑顔で挨拶する事を継続する。</p>
<p>E. 運営推進会議を活かした取り組み</p>	<p>会議で情報を共有し、できる範囲で地域の課題に取り組む。</p>	<p>コロナ禍の為、対面での運営推進会議はできていないが書面等による状況の共有はできている。</p>	<p>・事業所自己評価を拝見する限り、コロナ対策が優先され、なかなか地域との関わりは持てずにいると思われれます。</p> <p>・コロナ禍で感染対策が大変な中、会議を実施し改善しようとする努力に感謝します。</p>	<p>運営推進会議では、情報を共有し、できる範囲で地域の課題に取り組む。</p>

<p>F. 事業所の 防災・災害対策</p>	<p>防災・災害について勉強会等で学び理解し、訓練に生かす。月 1 回の避難訓練とシュミレーションは、災害時に職員が適切に対応できるように継続していく。防災グッズや災害時の連絡手段、持ち出す書類について再度確認する。</p>	<p>年に 1 回の勉強会と、月に 1 回の避難訓練を実施している。災害時に職員が適切に避難誘導できる様に、日中、夜間を想定して災害をシュミレーションして訓練を実施している。防災グッズや消火器の準備点検を行っている。</p>	<p>・事業所では防災対策、間違いなくなさっていることと思います。</p> <p>・コロナ禍の影響で防災訓練に参加できていないので残念です。防災・災害対策はしっかりされていると思います。</p> <p>・自宅が近いので被災時には力になれることがあれば協力したいと思う。</p>	<p>年 1 回、防災・災害について勉強会で学び、月 1 回避難訓練を継続する。災害時に職員が適切に対応できるようにシュミレーションして訓練を継続して行く。定期的に防災グッズや連絡手順、持ち出し書類等を再検討する。</p>
----------------------------	--	--	--	---